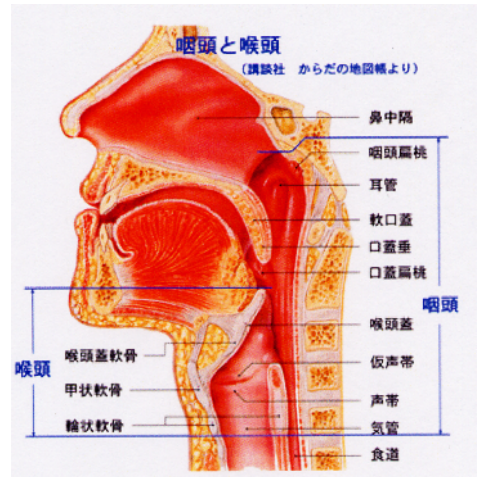


クループ症候群

喉頭の狭窄や閉塞によっておこる吸気性の喘鳴（ゼーゼー・ヒューヒュー）、犬吠様咳嗽（犬の遠吠え様の咳）、嘔声（声がれ）あるいは無声、呼吸困難を伴った状態をクループといいます。多くは夜間症状がひどくなり、一過性の呼吸困難を起こします。大部分はパラインフルエンザウイルスなどのウイルスが原因となりますが、中にはインフルエンザ菌などの細菌やアレルギーが原因となるものもあります。なお、現在はほとんどありませんが、ジフテリア菌が原因のものを「真性クループ」といいます。それ以外を「仮性クループ」といいますが、最近では一般に「クループ」あるいは「クループ症候群」などといわれます。



★ **症状** ウイルスによるものは3ヶ月～3歳に多く見られ、1歳にピークがあります。軽い上気道炎症状（鼻汁、咳嗽、嘔声）のある子供、あるいは昼間無症状であった子供が夜間漸次あるいは突然に、嘔声、犬吠様咳嗽が起き、吸気性喘鳴を伴う呼吸困難を起こします。症状は数時間続きますが、翌日は正常に戻る事が多く、通常3～4日から1週間程度続きます。細菌によるものは2～8歳に好発し、発症進行が急激で数時間で呼吸困難をおこす場合があります。高熱を伴うことが多く、放置すれば窒息死することもあります。

★ **診断** 上記の症状で大体診断できますが、気道異物やアレルギー性の喉頭浮腫などと鑑別しなければなりません。また、原因がウイルスか細菌かの鑑別も重要となります。X線写真撮影や血液検査をすることもあります。

★ **治療** 外来ではエピネフリンあるいはステロイド剤、鎮咳去痰剤の吸入をします。また、抗生物質や気管支拡張剤、あるいはステロイド剤の投薬を行います。細菌性のクループが疑われる場合には、入院治療および管理が必要となります。加湿、酸素投与、輸液、ステロイドや抗菌剤の投与などを行います。気道閉塞の状態になった場合には、気管内挿管や気管切開を必要とすることもあります。いずれにしても、急変に対しての十分な注意が必要です。

★ **看護** 患児を安静にしてなるべく楽な体位にして下さい。部屋の湿度はなるべく高い方がいいでしょう。水分を十分に与えましょう。

夜間、少しでも状態がおかしいと思った場合には、早めに救急病院を受診して下さい。